

## 平成 22 年度真珠養殖漁場の真珠母貝成長

幡野 真隆

### 1. 研究目的

淡水真珠養殖漁場の餌料環境を評価するために水質及び母貝の成長をモニタリングした。

### 2. 研究方法

平成 22 年 5 月から平成 23 年 2 月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、赤野井湾、堅田内湖において、概ね 2 ヶ月に 1 回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は過年度より垂下している大型の母貝に加え、今年度 6 月より平均殻長約 110mm の小型貝の 2 サイズのものを漁場内に垂下し測定に供した。

### 3. 研究結果

各漁場における母貝の平均殻長の推移を図 1 に示す。平均殻長は、大型貝で約 20.7mm～22.2mm 成長し、3 水域で成長に有意な差は認められなかった ( $P>0.05$ , Studentt-test)。昨年度と比較して、成長量は各水域ともに約 10mm 減少していたが、これは貝の大型化による成長の停滞と考えられた。小型貝の成長量は各水域で差が認められ、赤野井湾で 17.1mm と最も高く、ついで堅田内湖で 13.2mm、西の湖で 10mm の順であった ( $P<0.05$ , Student-t-test)。イケチョウガイは通常、小型の方が成長量が多いが、今年度から供試した小型貝は過年度から垂下している大型貝よりも成長が低かった。新たに垂下したために、環境に十分適応していなかった可能性もあるが、ここ数年来母貝の生産が行われてこなかったため、小型貝でも高齢貝であり、成長の悪い個体を選択的に供試していた可能性が考えられる。

今年度西の湖において淡水カイメンの大発生が見られ、秋には群体が貝を覆い尽くすほ

どに増殖した (図 2)。真珠漁業者によると、これまでも淡水カイメンが発生することはあったが、樹状に成長する種が多く、母貝を覆うほどに発生したことはなかったという。西の湖における小型貝の成長遅滞はカイメンによる濾水障害が原因であると推察された。淡水カイメンが大量に発生すると、貝の成長が遅滞したり、斃死したりしないよう母貝の清掃作業が必要になり、管理が煩雑になる。今後も発生が継続するか、引き続き注視するとともに、発生要因の解明や付着防止策等の対応策の開発が必要である。

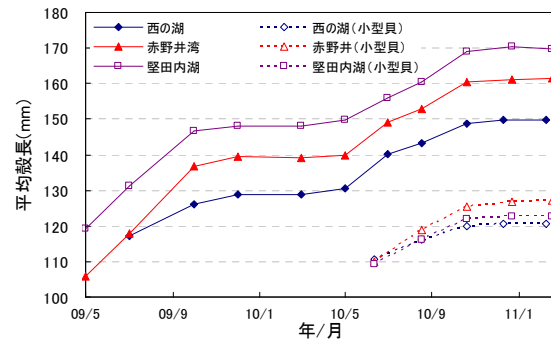


図 1 供試貝の成長



図 2 西の湖で大量発生した淡水カイメン

### 4. 研究成果

これらの調査結果を漁業関係者等へ情報提供した。